ようこそ！モンスターハンターへ！

れば一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ようこそ！モンスターハンターへ！

【Ｎコード】
Ｎ０３９４Ｍ

【作者名】
ればー

【あらすじ】
高校生の蓮斗はモンスターハンターの世界に入る事を望んだ

プロローグ（前書き）

作者は小説を書くのが初めてです、好き勝手・マイペースに進んでいくので心の広い方に読んでいただきたいです＞＜

プロローグ

俺の名前は白亜（はくあ）蓮斗（れんと）、今日は高校3年生の夏休みの最後の日、俺は夏休み中受験勉強もろくにせずに、外にも出ないで一日中ネットオンラインゲームのモンスターハンターフロンティアに没頭し続けていた

部屋の照明は消えていて、辺りを照らしているのはディスプレイの灯りだけだ

なぜ電気を点けないのかというと、昼間からずっと没頭して電気を点けっぱなしだったので少しでも電気代を節約しようという考えだ

「あ！くそ、火事場ってんのに粉塵・・・！」

ＰＣのウィンドウに向かってぼやく。時刻はもうすぐ夜中の3時を回ろうとしていた

（明日から学校か、この世界がモンスターハンターの世界だったら宿題も受験も無いし、毎日が楽しそうなのに・・・）

そんな願いが通じる訳もなく、時間は無情にも進んでいく

「そろそろ寝るか」

一緒に狩っていた野良の人達にお礼と別れの言葉を告げゲームを終了しようとした時、1通のメールが届いた

フレはもう皆オフラインになってるし、誰からもくるはずがなかった

「誰だよ、こんな時間に・・・」

愚痴りながら差出人の名前を見ると、

「ＣＡＰＣＯＭ！？」

一瞬のうちにパニックになる俺。何かブラックリストに載るような事でもしたっけ！？

とりあえずメールを見よう・・・

『やぁ白亜君、君は学生なのに夏休み中ずっとモンスターハンターフロンティアをやっていて、本当にこのゲームが好きなんだな。』

何これ、てかなんで俺の個人情報知ってんの！？

メールの続きには、
『君はモンスターハンターの世界に入りたいと思った事はあるか？』
、と書かれていた
そんなの・・・あるに決まってる！この世界に入れたらどんなに楽しい狩猟生活が俺を待っているのか、考えただけでも胸が躍る！
だから俺はメールにこう返信した、”もちろん！！”

・・・。

静寂に包まれた部屋の中で、電源の入ったままのディスプレイは煌々と人肌のぬくもりが残る椅子を照らし続けた。蓮斗が座っていたイスには温もりだけが残っていた・・・

プロローグ（後書き）

ふぃ～、プロローグ終了！これからどうなるかは作者の私にも分かりませんw何も考えないで書いたので（　。д。）

これからどうなるのか、良ければ見守ってやって下さいw

目覚めたら密林（前書き）

時間が出来たから更新！

目覚めたら密林

蓮斗「・・・ぅぅ・・・」
なんだか寝すぎた感覚がする、今何時だろ・・・起きなきゃ・・・
遅刻する・・・
地面が硬い・・・おかしいな・・・俺、ベッドの上で寝てたはずじゃ・・・
「ブヒブヒ」
蓮斗「うわぁ！！」
耳の辺りを何かに嗅がれる感触がして目を覚ます
蓮斗「え、え！？ここどこだよ！！」
辺りはヤシの木みたいな木や、見たこともない植物だらけだった
いや、待てよ・・・ここはなんだか見覚えがある・・・
間違いない！夏休み中ほぼ毎日１８時間以上モンスターハンターＦをプレイしていた俺には分かる！
蓮斗「ここって・・・！密林じゃん！！」
そう、ここはモンスターハンターの世界の密林の地形そのものだったのだ！
じゃあさっき俺の事を嗅いでたのはやっぱり！
起き上がって辺りを見回すと、背中に苔の生えた豚、”モス”がキノコを探して地面を嗅ぎながらウロウロしていた
そしてモスを見つけたことにより、この世界がモンスターハンターの世界であることを確信した
夢じゃ・・・ないんだよな・・・？蓮斗の体は震えていた。しかしその震えは恐怖や不安からではない、これからの楽しく新しい生活を想像して喜びと期待のあまりに震えずにいられなかったのだ
蓮斗「やったやったやったぁ！！！」
喜びのあまりに駆け出すと、蓮斗は繁茂している植物に足を絡ませてしまい盛大に転んだ

「いってぇ！！」
更に転んだ先にちょうどモスが歩いており、蓮斗の頭とモスの頭が星が出そうな勢いでぶつかった
モス「ブヒィ・・・」
攻撃されたと認識したのか、モスはこちらを向いて後ろ足で力強く地面を蹴っている
蓮斗「待って！俺が悪かった！謝りますからっ！」
そんな言葉がモスに通じる訳が無い。どうする、武器も持ってないし蹴りで倒すのもなんだか可哀想だし・・・
俺はモスの突進を避けると、モスの怒りが冷めるまで、近くの飛竜の巣に避難することにした

蓮斗「ここまではさすがに追って来ないだろ」
後ろを振り返ってもモスの追ってくる姿は見えない。ほとぼりが冷めるまでここで待機しよう
棒状の骨ももしかしたら武器になるかもしれないな、そう思い骨が大量に落ちている場所へ走り出した俺は、地面に埋まっていた謎の頭骨の目の部分に足のつま先を引っ掛けて転んだ
蓮斗「いってぇ畜生！」
大声をあげて転ぶ蓮斗。その声を聞きつけたのか、上の方からブーンと虫の羽音が聞こえてきた
”ランゴスタ”である。蓮斗はこの蜂を何倍にも大きくしたような虫の針に刺されるだなんて冗談じゃないと思い、元居たエリアへと駆け出したら地面に埋まっていた大きいカラ骨に足を引っ掛けて転んだ
まずい、追いつかれる！俺は覚悟をして、すぐそこまで近づいていた羽音に向かって思いっ切り蹴りを入れた
それが効いたのか、ランゴスタはキューっと高い声をあげて動かなくなった
しかしその次の瞬間！ブオオオオン！！！っとけたたましい羽音を

あげて地面へと降りてくる大きい影があった。”クイーンランゴスタ”である！
蓮斗「じょ、冗談じゃない！！」
あんなの敵うわけが無い！全速力で逃げ出す蓮斗。しかしクイーンランゴスタは蓮斗の場所にもう気が付いていた
クイーンランゴスタ「ォォォォォォオオオオオ！！！！！！」
ものすごい勢いでこちらへと飛んでくるクイーンランゴスタ。蓮斗は泣き出したくなる程怖かったが、なんとか元居たエリアへと逃げ帰っていた

「ハァ・・・ハァ・・・なんだよここ！超怖ぇよ！！」
もはや怖すぎて今すぐにでも家に帰りたい気分だった
キャンプに行けば誰か人に会えるかな・・・とにかく蓮斗は密林からの脱出を試みて、キャンプへと向かうことにした
蓮斗「誰か人に会えないかなぁ・・・」
こういう時に仲間が居ないと、どれだけ精神的にキツいかを痛感した蓮斗だった。とりあえずどこか街に着いたら仲間を探そう、そう決心したのだった

目覚めたら密林（後書き）

やっぱ小説って書くの大変だわ；；時間掛かるし><；
わずかな時間を見つけて書いて行かないと一生完結しないね、こりゃw

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0394m/

ようこそ！モンスターハンターへ！

2010年10月16日07時29分発行